

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)三国ヶ丘駅前庁舎	階数	地上5F
建設地	堺市北区百舌赤畑町1丁3番1	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	XX 人
気候区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	事務所・集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年8月 予定	評価の実施日	2015年8月28日
敷地面積	1,586 m ²	作成者	前田 拓身
建築面積	1,072 m ²	確認日	2015年10月13日
延床面積	4,502 m ²	確認者	北 伸一朗



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 施設計画方針として「人・街・自然」と対話する環境共生ビルを掲げ、いつまでも利用者に愛される施設」とし、4つの計画コンセプトを掲げ建物計画とした。①市民が利用しやすく、誰もが気軽に入れる、落ち着いた趣のある施設 ②歴史環境に配慮した外観デザイン ③周辺環境や自然環境に配慮した、環境にやさしい施設 ④緑豊かな古墳群に配慮した植栽計画	その他 太陽光発電による自然エネルギー利用を行い、施設の一部に電源供給を行う。日射遮蔽の為、東・南面の一部に庇、西・南面の一部に垂直ルーバーを設置し、冷房負荷低減によるヒートアイランド対策としている。	
Q1 室内環境 居室の開口部は複層ガラスとして、東・西・南面は熱負荷低減のため「高遮熱熱反射複層ガラス」(LOW-eガラス)、西面の一部には西日による日射熱負荷の抑制や日差し対策として縦ルーバーを採用し快適な空間とする。	Q2 サービス性能 用途が異なる各施設との連携や動線に配慮した単純で位置関係が分かりやすい計画とする。	Q3 室外環境 (敷地内) 地下式の雨水貯留槽を設置し、雨水流出抑制に配慮する。また、地上部緑化、屋上緑化を積極的に行い、地域環境に配慮する。
LR1 エネルギー 自然エネルギーを積極的に活用するため、ライトシェルフやトップライト等の自然採光システムを導入する。また、空調を行う居室の開口部はLOW-e複層ガラスとし、熱負荷の低減を図る。	LR2 資源・マテリアル 節水型の衛生器具を採用し、水資源の保護を図る。環境負荷の少ない自然材料、廃棄物などの再利用品や再生利用した資機材、低環境負荷材料(エコマテリアル)を内外装材や外構舗装材等に採用する。	LR3 敷地外環境 百舌鳥古墳群の緩衝地帯の「資産近傍以外の地域」に該当するため、緑豊かな古墳群との調和に配慮した外壁色や屋外広告物等に配慮した計画とする。また、道路に面した敷地周囲には中高木等を配置した良好な空間を提供する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



1. 建物概要	建物名称	(仮称)三国ヶ丘駅前庁舎	BEE	BEEランク
	建設地	堺市北区百舌赤畑町1丁3番1	2	A
	主用途/延床面積	事務所 / 4,501.53 m ²		

2. 重点項目への取組み		
重点項目	評価点	取組み度
CO ₂ 削減	4	●●●●●
省エネ対策	4	●●●●●
みどり・ヒートアイランド対策	3	●●●●●
安全快適な暮らし	4	●●●●●

再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	-	地熱	-		
	太陽熱利用	-	水力	-	バイオマス	-		

3. 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア				
CO ₂ 削減		評価項目	スコア	評価点
地球温暖化への配慮		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価値	3.5	4
省エネ対策		評価項目	スコア	評価点
外皮性能	CASBEE「Q1-2 2.1.2」のスコアによる評価値	建物全体	3.0	4
		住居・宿泊部分	0.0	
建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価値	4.0		
自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価値	4.0		
設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価値	4.5		
効率的運用(集合住宅は対象外)	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価値	3.5		
水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価値	3.4		
みどり・ヒートアイランド対策		評価項目	スコア	評価点
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価値	2.0	3	
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価値	3.0		
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価値	3.0		
安全快適な暮らし		評価項目	スコア	評価点
バリアフリー計画	CASBEE「Q2-1 1.1.3」のスコアによる評価値	3.0	4	
耐震・免震	CASBEE「Q2-2 2.1」のスコアによる評価値	3.8		
地域性への配慮、快適性の向上	CASBEE「Q3-3 3.1」のスコアによる評価値	4.0		
交通負荷抑制	CASBEE「LR3-2 2.3.3」のスコアによる評価値	4.0		

4. その他	
技術の名称	考慮事項
屋上・壁面・周辺緑化	直射日光による建物表面温度の上昇を抑制し、省エネルギー効果を期待する。
特に配慮した事項	
日射遮蔽の為、東・南面の一部に庇、西・南面の一部に垂直ルーバーを設置し、冷房負荷低減によるヒートアイランド対策としている。	